

昭和興産が新中計

20年度に1000億円企業

アジア拡大、新事業育成

昭和興産は、今期(2016年12月期)から5カ年の中期経営計画をスタートし、最終年度の20年度に国内外単純合算で売上高1000億円以上を目指す。目標達成へ向けて、アジア地区でのビジネスおよびグリーン、ライフ、アグリなどの新規事業の売上高をそれぞれ100億円規模に引き上げる。このほか、実施した組織改革で新たに新規事業開発部、海外事業部を設置したほか、中国・広州に新拠点を開設を決めた。既存事業の維持拡大を図りながら成長が見込める市場・分野を積極開拓する体制を整え、ビジネス拡大につなげていく。

新中計は「SK2020 価値創造企業への挑戦」〜日本・アジアで変革と進化を目指して〜。営業戦略のテーマとして海外での事業拡充と営業力強化、国内事業基盤の強化、事業構造の変革推進に取組む。

海外事業における重点市場と位置付けるアジア地域にはタイ、インドネシア、上海、香港に現地法人を構える。このうち昭和興産(タイランド)は情報電材、食品原料などを中心に順調に推移しており、昭和興産(上海)貿易有限公司も自動車関

連、携帯電話・スマートフォンなどの成長産業分野への高付加価値商材が伸びたことなどにより15年度の収益が大きく拡大し、累積を一掃した。14年に開設した昭和興産(インドネシア)もビジネスが軌道に乗り始めている。

15年度の売上高は国内が703億円、海外現法が売上高は57億円だった。新中計では海外現地法人の売上高比率を10%以上とする目標を設定した。内訳はタイ40億円、上海35億円、インドネシア10億円、香港8億円、海外

部を立ち上げ、その下に海外4現地法人を統括する海外統括グループおよび海外業務グループを設置した。

一方、新規事業は、農業関連、再生可能エネルギー、食品、高齢者向け市場、都市インフラなどがテーマになる。国内市場が成熟化傾向にあるな

か、新規事業開発部を新設し、伸びる市場・未開拓分野に向けて、強みを生かした戦略商品を国内外で積極的に展開していく。